

自動車整備業界における現況と課題

1. 自動車整備業界の現況
2. 整備作業内容別整備売上高
3. 現状の課題と対応
4. 自動車の高度化に対する現状認識

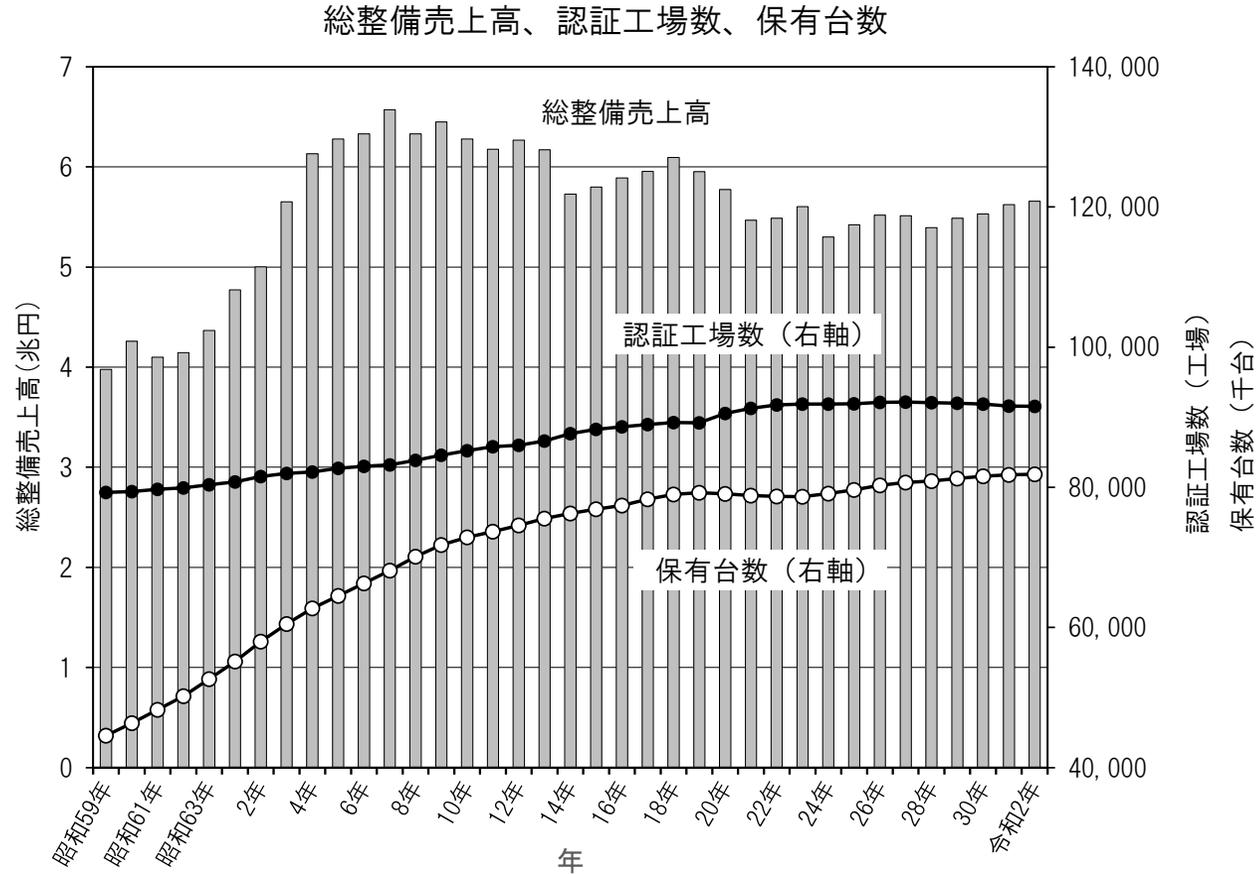


令和3年12月14日(火)

(一社) 日本自動車整備振興会連合会

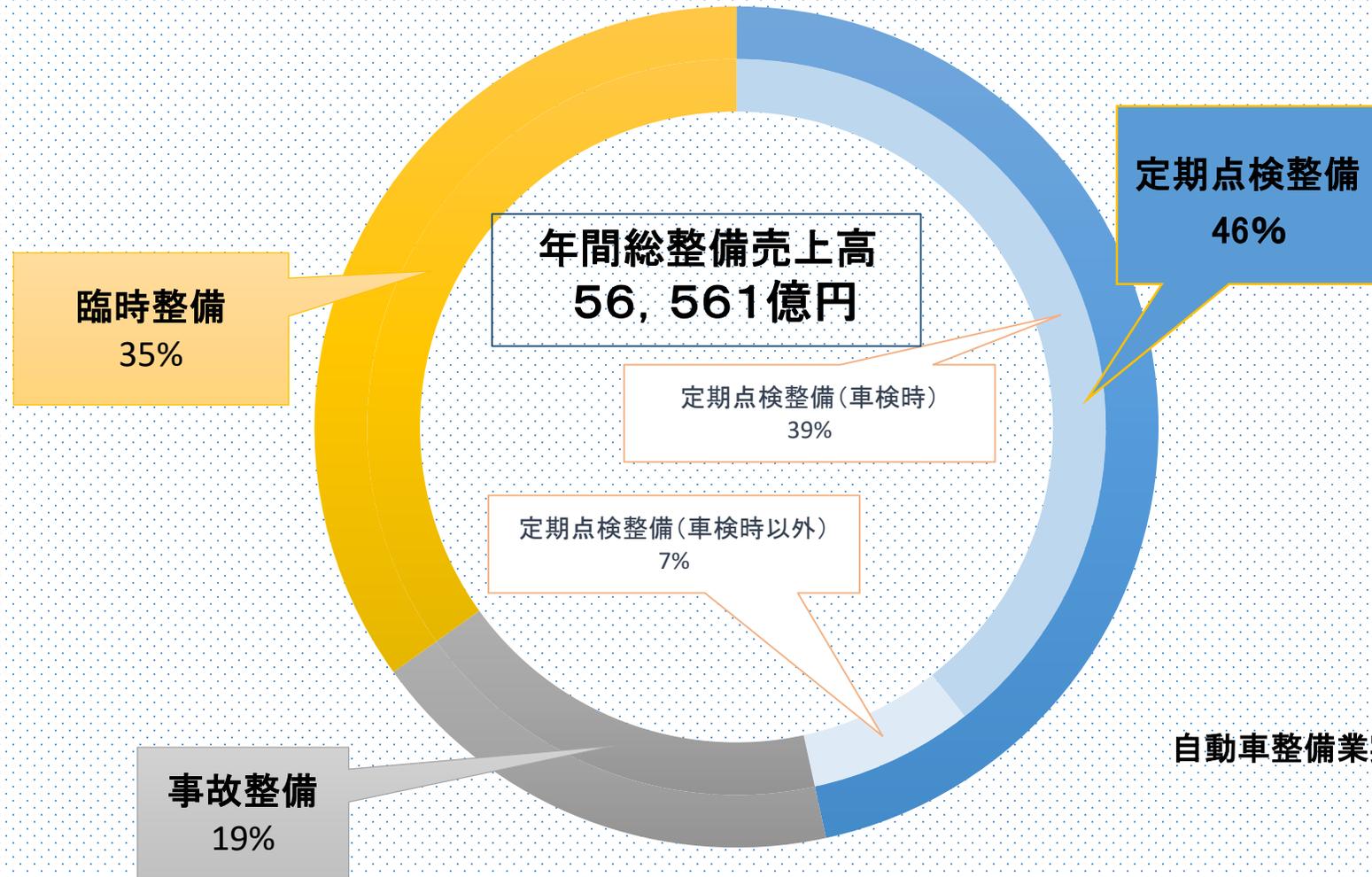


1. 自動車整備業界の現況



- ◆ 令和2年調査による総整備売り上げは5.6兆円
対前年度0.6%増と東日本大震災前の状況に回復したものの、長期的には減少傾向
- ◆ 保有台数当たりの整備売上は、ピーク時の7割にまで減少
- ◆ 整備工場数は9.2万、全国津々浦々に存在
 - ・ 専・兼業 71,654工場
 - ・ ディーラー 16,315工場
 - ・ 自家 3,564工場
- ◆ 従業員数は54万人（うち整備士は34万人）
- ◆ ほとんどが中小零細企業（従業員10人以下が8割）

2. 整備作業内容別整備売上高



自動車整備業実態調査結果(令和2年)



3. 現状の課題と対応

(1) 自動車整備技術の高度化への対応

自動運転車などの普及に伴う整備技術の高度化

(2) 整備人材不足への対応

人材確保

- ・ 国、関係団体等と連携したPR活動
- ・ 外国人技能実習制度、特定技能評価制度の活用

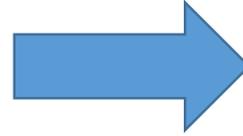
労働環境、待遇改善への取り組み

(3) 事業場の生産性、効率性向上への対応

- ・ OSS（指定整備工場における継続検査手続きのワンストップサービス）の推進
- ・ 省力化機器などの導入促進

(4) 自動車ユーザーによる保守管理の徹底

定期点検整備の励行等使用過程における保守管理の徹底



● 特定整備制度の導入

（令和2年4月施行）

自動車技術等の急速な進展に対応するため、電子的に制御されている先進技術装置の整備を行う場合にあっては、国の認証が必要となる新たな特定整備制度が導入。

● OBD検査の実施

（令和6年10月開始予定）



4. 自動車の高度化に対する現状認識

- ①EV車などの次世代自動車の普及の見通しが不透明であることや、自動車の長期使用化が進展する中で多種多様な動力車の併存期間が長期にわたることが想定されることから、整備事業者の対応は広範囲かつ長期に求められる。
- ②こうした新技術への対応では、新たにEV車などの次世代自動車への対応に加えて、自動運転技術への対応も必要になるため、整備事業者においては次の対応が必須と考えている。
 - (i) 技術教育の充実
 - (ii) 整備情報の取得の充実
 - (iii) 整備機器、部品等の確保
- ③事業の効率化、生産性向上に向けた取り組みの推進が必要
- ④加えて、事業者連携や集約化に対する取り組みが必要